

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600102		
法人名	有限会社ケアカンパニー		
事業所名	グループホームゆかい		
所在地	武雄市武雄町大字富岡12245-6番地		
自己評価作成日	平成22年3月27日	評価結果市町村受理日	平成22年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人佐賀県社会福祉会
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成 22年 4月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・より良いサービスを提供し、ご利用者、ご家族に、ここでよかったと満足安心していただけるように、サービスの質の向上に向け真剣に考えております。</p> <p>サービス向上への具体的な考え方としてスタッフ1人1人が仕事に対し自信を持ち、満足して仕事ができるよう、専門職としての知識、技術、態度を身に付けるよう、積極的に研修の参加、施設内での勉強会の実施に努めスタッフ1人1人が実践者となるように努めています。</p> <p>・利用者さまの心身の状態を把握し体調変化の早期発見に努め、医療機関への迅速な連絡体制がとれており、Drによる早期の対処ができるようにマニュアルができており全スタッフが理解している。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームゆかいは、①「私たちは、利用者を尊重し、安心と安らぎを与える介護サービスを行います。」、②「私たちは、利用者の能力を最大限に発揮できる介護サービスを行います。」、③「私たちは、利用者が家族や地域社会に開かれる介護サービスを行います。」、④「私たちは、利用者に苦情・拘束・差別のない介護サービスを行います。」、⑤「私たちは、社会的責任を認識し健全な介護サービスを行います。」という理念を掲げ、ゆとり、かいてき、いやしをモットーにサービス提供をされている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の意味について周知し有効なものになるようにしている。	理念は玄関に表示し来訪者へも提示されている。また、事務所にも掲示することにより職員が常に見て意識し、毎朝朝礼で唱和することにより、業務で実践できるよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開かれた施設を目指し、地域資源の活用を行っている。	月々の行事や敬老会、クリスマス会、誕生会などに地域のボランティアの協力のもと一緒に行うよう努められている。また、散歩時の会話や、野菜などの差し入れなど日常的な付き合いができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はキャラバンメイトに参加し地域の人に認知症の人の理解を呼びかけている。スタッフにもそのような意識持ちで過ごすように呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティア団体などの紹介を頂き、当ホームの行事の活性につなげている。	2ヶ月から3ヶ月ごとに開催され、ホームの情報提供や、地域の情報収集などなされ、参加者の意見を聞いて運営に反映しサービス向上に活かされている。	地元の区長や、近所の住民等の参加を推進され、更に地域の意見をサービス向上に活かすことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターなど、制度について不明な点や疑問な点などを、尋ねたりなど、協力して頂いており、大切な資源となっている。	ホーム長がキャラバンメイト(認知症サポーター)として活動され、市との連携はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、ホーム内での勉強会の開催を行いマニュアルを全職員が目を通せるようにしている。	外部研修に参加し理解を深めるとともに、ホーム内での研修を行うことにより身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修に参加し、虐待防止に努めている。万が一虐待が発見された場合の対処法などの周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援はいつも念頭におくようにしている心身の状態に合わせたケアを行い、無理は言わずに、利用者様に気持ちよく生活して頂くように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明などを行い、不安や疑問点を尋ねて、十分な説明を行い、理解納得を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からのご意見があれば、お聞きし、解決や納得につなげていけるように努めている。また苦情窓口の設置している。	面会時に情報提供を行い、家族の意見や要望を聞いてホームの対応や、運営の見直しを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議、第二日曜の会議、日頃から意見が言えるような時間、雰囲気であるように環境作りを行っている。	毎月開催される2回の職員会議において、運営や、サービスの内容について意見交換し、職員の意見を取り入れて改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に行きやすい環境作りや、働きやすい条件に向けて検討している。職員の努力、実績、勤務態度など把握し、給与水準を合わせ、満足して働いてもらうように考え配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員は、仕事として研修の参加ができる事とし、研修参加しやすい環境にしている また研修で学んだ事を、会議の際に発表し、分かち合う時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加にて同業者と交流の機会がある。 また地域の事業所に見学をさせていただきサービスの質向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面接段階で、ご本人の困っている事不安な事、要望等に耳を傾けながら、本人の安心確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク面接段階で、ご家族の困っている事不安な事、要望等に耳を傾けながら、本人の安心確保する為の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズも踏まえ、インテーク段階で、どのサービスが適切か考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる所は、ご自身にして頂き、日常生活の中で、自然に家事などをして頂いたり、ご本人に頼み事をしたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に気軽に来て頂けるような、お声掛けや態度で、ご家族に接するように努め、病院受診や外出も気軽に家族と出て頂けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも気軽に面会に来て頂けるような対応を心がけている。ご本人が住み慣れた地域に出向いたり、希望箇所への外出など、ご家族との外出など、積極的に支援に努めている。	ホームへ面会されたときはゆっくりしてもらえよう配慮し、本人の希望に応じて、希望される馴染みの場所へ外出し、顔なじみの方々との関係継続の支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員に声掛けをし、皆で同じ活動を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、御気軽にご相談や訪問などして頂けるような、お声掛けに配慮してる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションの中で、そのような心配りに努め、利用者様の意向、希望に向け、努めている。	表情や言動から本人の意向を把握されている。また毎日の朝礼時に職員の情報を共有し、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時などに、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の現状把握等は、常に行い、それに合わせたケアプラン内容、サービスになるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	双方からの意見、アイデアを出し合い、現状に即した介護計画になるように努めている。	担当職員を設け、全体の意見を集約し、介護計画が作成されており、期間に応じて評価し、見直しが行われているが、担当者会議等の記録が整備されていない。	会議や、家族の意見など、記録を整備されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル記録、食事摂取量、排泄記録など、他にも個別の記録をし、日々の引継ぎや、それ以外でも職員間で情報の共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族からのその時のニーズに合わせてるように、考えている。型にはまらず、柔軟に対応できるように検討し、多機能化できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	活用できる資源は最大限利用するように考え、利用者の希望、また喜びや楽しみに繋がるような地域資源の活用を行うように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に主治医の希望を聞き入れている。定期受診の度、臨時受診、などの際に医療機関へ密に情報提供を行い、適切な医療を受けられるように努めている。	家族や本人が希望する医療機関での受診ができるよう配慮し、家族での通院時にも対応できるように情報提供表を作成されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職やかかりつけの看護師に相談し、意見を聞き、受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は、定期的に面会に行き、現状の説明などをして頂き、全職員に伝達している。また医療機関からの相談、要望にも柔軟に対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期となった場合は、早い段階で本人、家族と今後の方針を決めて共有し、それに添うように、主治医や他の医療機関などと、チームで支援するようにしている。	ホームで出来ることと出来ないことについては、契約時に説明し、理解を得られている。また、早い段階で主治医と家族と相談し対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	BLS(一時救命処置)の研修へ毎年参加し、また職場内での初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定しての避難訓練は行っているが、地震、水害を想定しての訓練や、避難の際、利用できる建物の確認、確保ができていない。火災の際の地域の協力は呼びかけているが、その他の災害に対しては、体制がない。	年2回の訓練では夜間の出火を想定した避難訓練を行っている。地域の住民への呼びかけはしているものの、体制はまだできていない。	地元消防団や、地区区長等を通じての協力体制の確立、また、地震や水害等の災害時の対応についての備えも、今後の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(利用者を尊重し安心と安らぎを与える介護サービスを行ないます)と当ホームの理念にもあるように、思いやりを持って、その人の立場になって考え、気持ちよく過ごして頂けるように努めている。	ゆったりとした対応を心がけられ、高齢者を敬うような言葉使いで対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューの希望、外出の希望、その他色々、利用者様の思いや希望など聞き出せるように、声掛けしたり、言いやすい雰囲気でするように、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日やりたい事、どのように過ごしたいかなど問いそれを優先するように努めている。意欲をすごく大切に、楽しみにつなげていけたらと、日々心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床されたら、髪型、服装など整容の声かけ介助に勤めている。化粧などの進めや、外出の際の服装換えなど、就寝時のパジャマの勤め名ど勤めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの希望をお聞きして取り入れるようにしている。野菜の皮むき、野菜切り、お茶つぎ、食器洗い、拭きetc...など一緒に行うようにし、支援されるばかりにならないように努めている。	入居者の希望するメニューを取り入れたり、外食に出かけるなど工夫されている。また、準備から後片付けまで入居者とともに、一緒に食事をして楽しい時間となるよう努められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	Drの助言で、疾病者の食事量や水分量、栄養バランスのコントロールを個々に支援している。定期の血液検査の結果を体調状態の指標として、Drからアドバイスなどをいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。自身でできる方は、洗面所で自身で行って頂くようにお声かけし、困難者には、スタッフがケアさせて頂く。毎晩入れ歯の洗浄液に浸けるように勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が多い方のケアとして、排尿、排便サイクルの把握をし、失禁される前に、トイレ誘導し排泄して頂くようにし自立に向かうように支援してる。また医療機関に受診し、医師の助言を取り入れている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因は医師に聞き、対処法も医師の助言を一番に取り入れ対応するようにしている。一般に便秘の原因、予防と提唱されている内容に関する理解は		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の予定は一応決めている。その中で、希望があれば、柔軟に対応をしている。	14時からの入浴時間で、個々の希望に応じて入浴支援がなされている。また、入浴日は設定されているものの、希望があれば毎日入浴する入居者にも対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中は起きて、メリハリのある生活をして頂くように心がけている。その中で、個々の体調などに応じて、休息して頂くなどの配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが確認しやすい所に、お薬ノートを置いていつでも確認できるようにしている。副作用、用法について、Dr、薬剤師から注意点があれば聞き、全スタッフに周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のやりたい事を探りだし、喜びや、充実感や張り合いを感じて頂けたらと考え、サービスできたらと努めている。喫煙される方の対応も行ってた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそって外出するように、行きたい所はどこか確認するようになっている。家族と県外に行かれたりする事もある。出先で地域の方の協力を頂く事が。飲食店のスタッフなどに、刻み食のお願いなど。	入居者は、週1回程度の散歩と希望に応じた外出、月々の行事での外出など室内にこもらないような支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出向き、支払いをご本人にして頂くなどの、支援を行っている。自立支援の一環だと考えてます。お金を所持したい方は、ご家族の了解の元所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話できるように支援しています。ご家族、その他の関係者に年賀状の送付を毎年行うようにしている。その他にも希望があれば、いつでも対応できます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、居室などに、不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮している。空調管理、強い西日をカーテンでさえぎるなど、居心地がよく過ごせるように努めている。	共用空間は家庭的な雰囲気となるよう、家具や壁面の飾りなど工夫し、落ち着いた雰囲気となるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれるような、部屋はありませんが、居室なら独りでゆっくり過ごせます。リビングルームが集いの場で、気の合う利用者同士で楽しく会話されたりできるような場所としています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、家具や、愛着のある物、趣味で使う道具など、持ち込み自由です。安らげる自分だけの部屋が構築して頂けるように、心配りしています。	以前から使っていた家具などが自由に持ち込まれ、個々の状態に応じた居室の雰囲気づくりがなされ、入居者が安心して過ごせるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー住宅となっております。歩行状態が不安定な方に見守りだけで、自力で歩行できるように手すりを配置しています。		